

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	NPOみなまた グループホーム ふれあいの家
所在地 (県・市町村名)	熊本県水俣市月浦213-1
記入者名 (管理者)	佐藤 順子
記入日	平成 21 年 2 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権(その人の暮らし)、安心(居心地の良さ)、共生(地域の住民として)」の三つの柱を基本とした理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のミーティングの場で、日々の対応のふり返りを理念に沿って行っている。	○	ケアの方向性として理念を強調とした話し合いを持っていきたい。その過程で理念の見直しも行いたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域や家族それぞれに、ふれあい通信を配布して活動を伝える努力をしている。	○	通りがかりの人が気軽に立ち寄り、入居者の方と交流ができるような場を整える。地域の行事やイベントに参加し、ふれあいの家の存在を知って頂くようにしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所に家がなく、通りがかりの人や畑仕事をする人へのあいさつを心掛けている。10周年の催しでも多くの地域の方から参加してもらった。	○	今後も行事を企画してここを知って頂くよう努めたい。日常のおつきあいも少しずつ増え、地元の方から野菜を頂いたりすることが多くなった。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の一員として入居者の方と地元祭等に参加し、交流に努めている。	○	出月地区の地域リビング、まどか園の催し、おれんじ館の催しに参加している。近くの保育園や小学校からの来訪も増えている。今後も気軽に立ち寄ってもらえるよう、こちらからも働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域からの要請で、認知症ケアの啓発を求められたら積極的に取り組んでいる。</p>	○	<p>地域リビングを通して話し合う機会がある。職員の経験を生かせる場を探していく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全職員で行い、目的や意義を理解するよう努めている。又、外部評価の結果をミーティングで伝え、改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>自己評価は地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方を全体的に考える良い機会である。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での提言で、地域への協力要請としてふれあいの家通信を回覧で回してもらったり、地域の消防団の方々の協力を要請したりしている。又、毎週開かれている出月地域リビングにも入居者の方と共に参加している。</p>	○	<p>地域リビングに定期的に参加する。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で市担当も来て頂いている。又、地域密着部会も水俣市単位で開催されており、参加連携を深めている。</p>	○	<p>今後も市や地域密着部会と連携をとり、課題を明らかにし、サービスの向上に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要と思われる人には制度を説明している。現在、新しい入居者の手続進行中である。</p>	○	<p>職員間で、より理解を深める為学習会を行いたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の学習会を開いて理解を深めている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族との信頼関係を第一に置いており、看取り等においても個別に話し合いを重ねている。	○	もっと十分に話し合いを重ねていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分の気持ちを言葉で表現できない入居者の方は、ご本人の表情から察知できるよう努めている。又、ご家族の方々とも機会ごとに話し、意見や要望の把握に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族の訪問時はもちろん毎月、写真入りの通信と共に個別に入居者の方の状態をモニタリングして「おたより」で報告している。	○	より合理的な金銭管理、ご家族への報告の方法を模索している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には、出来るだけ丁寧に対応し、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、ご意見をケアに反映させるよう努めている。	○	ご家族へのリスクの説明とそれへの対応の仕方の方針をもっと緻密に行いたい。その事で、ご家族と意見交換を合意したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員総会等で出された意見を反映させている。	○	あらゆる職員の意見要望がきちんと吸い上げられるようミーティング等で話しやすい雰囲気を作れるよう心掛けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ぎりぎりの人数のために管理者・職員に負担がかかっているが、入居者の方の個々の状態に合わせたシフトの調整には努めている。	○	フリーの職員を配置し、急な病院付添や入居者の希望される外出にも対応できるよう努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員が対応することが入居者の方、ご家族への安心につながるので、やむを得ない場合を除いて異動はできるだけ避けている。	○	管理者の異動があったが不安をさける為、時々顔を出してもらったりして急激な変化がみえないよう配慮した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者会議、主任会議、職員研修、職員総会等を通じて育成の努力がされている。又、積極的に外部の研修への参加が推奨されている。同経営の他施設との交換研修も行っている。</p>	<p>○</p> <p>新しい職員が多いので研修会等に出来るだけ参加してもらおう体制を作っていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム地区ブロック会や市の地域密着部会、同経営施設間の介護部会等を通じて交流や学習を行い、質の向上に励んでいる。</p>	<p>○</p> <p>上記と同様、全職員が様々な研修に参加し研鑽できるよう努める。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室がある。1日1～2回ティータイムをとっている。親睦会や個別面談を時々開いている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>女性の多い職場なので育児休暇が認められている。健康診断は年1回実施されている。又、ミーティングでは研修報告、学習会など各自の課題把握が出来るよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>系統だった学習会をしていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人、ご家族に会い、困っていることや不安など、その方の状況を把握するよう努め、入居時のショックを和らげるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>入居時の不安を和らげる為、職員はよく観察し記録・話し合いを通じて情報を共有する努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者の方の状態や困っていることなどを詳しく聞いて、ご本人を把握し、状況を受け止める努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の訪問を依頼したり、生活の様子を報告したるして安心して頂けるようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込み時、相談に乗り、必要と思われた時は他のサービス利用を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時、ご家族の協力を得ながら、ゆっくりなじんで頂けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意を払い、本人のペースを尊重した暮らしを心掛けている。	○	ご本人の求められている事の把握に努めている。職員それぞれ違った場面を経験しているので、その共有に努め、月1回のモニタリングでは意見等出し合っている。職員の日常会話や申し送り時確認しあうことも多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を密に行うよう心掛け、ご本人を共に支える関係を築く努力をしている。又、ご家族に「このように支えてほしい」と要望することもある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の家族への思いが伝わるよう様子をこまめに伝え、必要時は面会を依頼する。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人などとの交流を大切にしている。面会時には当時の様子などを積極的に聞いている。 ご本人がいきつけの美容院やお寺など外出を希望される時は援助している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合いそうな人同士を同席にして家事参加やレクリエーション等を共に楽しんでもらっている。	○	関係がぎくしゃくして動揺される時もある。そのような時は間に入り、関係の修復に努めている。 仕事の割りふり等衝突の起こらないよう工夫をしている。皆さんが求めておられる活動(家事やレクリエーション)ができるようニーズの把握に努め実践できる体制を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時もお見舞いに行ったり、ご家族を行事に誘ったり、つきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の表情や態度を観察し、満足度やニーズを把握することに日々努めており、職員間の情報交換を密に行っている。	○	言葉で表出できなくてもいろいろ働きかけたり、様子を観察したりしてご本人の求める活動の開拓を心掛けている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や知人からこれまでの暮らしを折りに触れ、たずねて常に把握する努力をしている。	○	職員がいつでもみれるようにファイルしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察、情報交換と共に月1回のモニタリングを通して、ご本人の心身状態の細密な把握とニーズの再発見に努めている。	○	全職員がそれぞれの入居者のより良い状態を模索する雰囲気がある。ミーティング、モニタリングはもちろん日常の会話の中でもその事が話題になる雰囲気を大切にしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・家族の要望を折りに触れ、聞き、モニタリングで全職員と話し合い、介護計画に反映するよう努めている。	○	月1回行うモニタリングで介護計画の項目をもうけて具体的検討していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態を急変時には、すぐに見直しをして、現状に即した計画を作成している。	○	書類の方が追いついていない。職員の日々の会話の中で変えるべき方針は提議され実行されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や、本人の言葉、職員の気づきは、ケアに関わった職員が個別のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に各担当者が月の終わりにモニタリングし、介護計画の見直しへと活かしている。	○	現在の課題としてかかわった人がすぐ記録するということを実行するよう努力している。申し送りノートを全員が利用するよう改善した。ケアの面での申し送り情報の共有の為掲示板の活用を徹底していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調の急変時や往診のない病院の受診、又家族が遠方の方の場合、入院中の支援等臨機応変な支援をしている。旧知の方との面会、おでかけ、買物にも個別に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議での助言により、地域の回覧板で通信を発信しており、入居者の方の顔を覚えてもらう努力をしている。地元の消防団との連携をはかり、いざという時の支援要請をしている。地元の施設、おれんじ館、まどか園との連携で行事に参加している。	○	地元の学校、保育園との交流も行っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	かかりつけの歯科医に相談して、口腔ケアの管理指導は「はみがき隊(歯科衛生士)」に訪問指導を依頼している。必要な人に針灸、マッサージを医療手帳を利用して依頼している。近隣のおれんじ館デイにお願いして一時期通わせてもらった。	○	出月地区の地域リビングに可能な限り入居者と参加している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、意見や助言をもらっている。後見人制度利用申し込み中(地域包括支援センターを通じて)		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のなじみのかかりつけ医に定期往診を依頼している。ご本人の状態を主治医に細かく報告し、より適切な医療を受けられるよう援助している。その他受診の必要な場合、ご家族が行けない場合は職員付添で対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診が必要な方には受診できるよう支援しており、専門医と緊密に連絡を取り合っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応の訪問看護ステーションと連携を取り、週1回定期的に健康チェックをしてもらい、相談に乗ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人の状態を病院に説明し、なるべくストレスや負担がかからないよう配慮してもらい、早期に退院できるよう情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した方については、主治医・ご家族と共にくり返し話し合いを重ね、ご本人にとってより良い状況で暮らせるよう関係者一同で方針を共有している。	○	他の方々にもできるだけ早い段階で方針の共有をはかっていく予定。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記のような重度化した方への方針は共有しているが終末期介護の経験は、まだしていない。	○	今後の変化に備えて、主治医やご家族と共に検討や準備を行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでのご本人状況を細かく伝え、ご家族と連携をとりながら職員も何度も顔を出し、不安を取りのぞく努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを大切にし、さりげない言葉かけや対応を個別に行っている。 個人情報の取扱いは職員一同個別の注意点を確認している。	○	日常、機会がある毎に個人の尊厳を守るかかわりを意識して言葉にしています。 個人情報保護に関してもマンネリ化しないよう機会をみつけて話をしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉として表現できなくても様子を観察していろいろな場面を統合しその人のニーズを探る努力をしている。 入浴・外出等もYES・NOでの意志確認をし、又どこに行きたいかも尋ねている。外食、弁当、献立等、事あるごとに希望をきき出す努力をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを第一に考え、好きな時間好きな場所で過ごしてもらっている。天気が良くて表に出たい時は散歩に出かけ、以前すごしていた地域に行きたいと言われたら他の方も誘ってドライブに出かけたりしている。	○	もっと個別の楽しみを見出す工夫をしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	選べる人は好きな服、髪型を選んでもらっている。昔行きつけの美容院を希望されれば送り迎えをしている。ご自分で髪染剤を買われる方もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗ふきや下ごしらえ、盛りつけなどのお手伝いのできる人にはお願いしている。 ホットプレートを購入し、鉄板焼やお好み焼などを楽しみながら行っている。	○	入居者からの希望で月1回移動販売のパン屋さんに依頼し、立ち寄ってもらい、パンの日を設定した(もう少し増やす計画)。 お楽しみの日を決め(週1回くらい)、材料調達も献立作りも一緒に出来たらと考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿病の方が多く、制限しがちになっている。 おやつや飲み物もカロリーに配慮しつつ欲求が満たせる努力をしている。	○	もう少し勉強し、情報を仕入れて食物欲求に応じていく努力が必要と考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハパン使用の方も排泄時間を把握して、ポータブルトイレやトイレを使用して頂いている。 やっとうちさすようにうながして食後、トイレに坐って頂いている。	○	トイレの使い方がわかりにくい方が居られるのでその方の安心できる状態を模索し続けているが、なかなか難しい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の暖かい時間帯でタイミングに合わせて入浴して頂いている。 ゆず湯、しょうぶ湯、入浴剤などで温泉気分を味わって頂いている。 入浴によって気分良くなられる方もいて希望があれば毎日でも応じている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調をみながら休息して頂いている。 好きな歌を流している。 温度・湿度の調節、換気に気をつけている。 入床前に暖かい飲み物を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、庭でのおやつ、ドライブ、季節ごとのおでかけやイベント。 日々の茶碗ふき、洗濯物たたみ、買物等。 おしゃべりや歌を共に楽しむ。 ご本人が自ら取り組める役割の支援。	○	一人の方が自ら自分の仕事として拭き掃除に取り組み始められ、驚くほど落ち着かれた。それを目の当たりにして職員もグループホームの役割を再確認した。今後もそれぞれの方々が何を求められているのか個別に把握し、ニーズにそった支援をやっていききたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持って安心される方には持って頂く。ある程度管理できる方には、ご自分で管理して頂く。	○	お金を持つての買物はとても喜ばれる。 お買物の支援をしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前暮らしていた場所に行きたいと言われ出掛けている。 仕事以外でも天気の良い日に散歩に行ったり、庭でおやつや食事をしたりしている。	○	もっと積極的に計画的に外出を行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方は体力的にきびしい人が多く、季節の行事、イベント以外は実現できない。	○	車イス対応車を導入したので、もっと積極的に外出したい。 家族との旅行支援を考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけ、ご家族からの電話があれば取り次いでいる。 手紙への返事の支援、年賀状書きの支援も行っている。	○	ハガキや手紙は代読している。 ご本人に返信をすすめると共に、ご家族からの積極的な交流を職員から願う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問されている。 職員がお茶でもてなし、近況を報告している。	○	上記で遠方で遠のいている親族の方に積極的に写真付ハガキ等を送ったりして交流を深める。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族の了解を得て、転落防止、坐位保持に車イステーブルやベッド手すりを必要な時のみ使用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。 居室には鍵をつけていない。 地域に回覧板でふれあいの家だより地域用を作り、一人でも出る可能性のある人の写真を載せたり覚えてもらう努力をした。	○	昨年、しばしば外出された方は今落ち着かれているが今後も運営推進会議などで地域の方々にふれあいの家を知って頂く努力をしていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にチャイムをつけ、外に出られたら把握できるようにしている。 夜間の休憩は見通せるリビングでとっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等は見守りのもと使用して頂いている。消毒、薬品類は一括して入居者の方の目の届きにくい所に保管している。 入居者の状態を把握し、必要に応じて対処している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	急変時対応の勉強会を定期的に。又、その都度行っている。	○	毎月行うモニタリングで想定される事故のリスクを上げる項目を追加し、全職員で検討する。 緊急連絡網はあるが行方不明、火災用も別に早急に作成する。 ヒヤリハットノートの活用の徹底を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命法の講習を定期的に行っている。 夜勤の急変時には、応援がかけつける体制をとっている。	○	急変時の対応について日常的に話し合い学習会を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練の実施。 緊急連絡網を作成している。 自動通報装置、各居室に煙探知機を設置。 自治会、消防団に災害時の距力要請を行っている。	○	飲料水は準備しているが食料の準備を徹底する。 近隣の協力体制を整える。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、ご家族に説明し、対応策を話し合っている。	○	リスクとそれに対する取り組みをおたよりに組み込む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックはもちろん、一人一人の体調の変化の申し送り、記録等で共有している。	○	申し送りノート、入居者用掲示板を活用し、情報の共有を徹底する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会。 服薬チェックしやすいように個別名の薬ポケットで対応。服薬時の職員の声かけ、見守り、確認。	○	薬辞典(現在服用中の薬)を作成し、薬の目的、副作用、用法・用量を確認できるような学習会を行っていききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり水分補給に注意している。 食事の献立に配慮している。 なるべく自然排便を促せるよう考慮している。 一人一人に合わせた排便コントロールを行っている。	○	便秘についての学習会をNPOみなまた全体で取り組んでいく予定。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯みがきの声かけを行い、一人一人に合った介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄、消毒を行っている。はみがき隊に口腔ケアの勉強会をしてもらい、その重要性を職員間で共有している。	○	口腔ケアの資料作り、学習会を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、情報を共有。献立は一人一人個別に配慮している。	○	必要な方は食事量や水分量も主治医と相談している。水分を摂りたがらない人には好みの飲み物をすすめたり、介助が必要な人にはしっかり介助し必要量の摂取ができるよう支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の情報収集を行い、早期発見・早期対応に努めている。職員、入居者の方にはインフルエンザ予防接種を毎年受けている。手洗いの徹底。ペーパータオルの使用。入居者の方の手洗い誘導、食事の手ふきを行っている。	○	来訪者の方にも手洗い消毒を促している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんの漂白は毎日行っている。冷蔵庫内の点検は頻回にし、食材の鮮度や状態を確認。	○	作り置きを冷蔵庫に保管する時は必ず作った日を記入するようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木鉢を置いたり、プランターに花を植え、明るいイメージを作っている。玄関の外にイスを置いている。階段・スロープに手すりをつけ、誰でも利用しやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節を感じられるグッズを壁にかけたりして親しみやすい雰囲気を作っている。テレビの音、音楽などが雑音にならないよう気をつけている。掃除機、水道の音は時間を配慮、声かけ実施。	○	足元の冷え対策にホットカーペットを利用している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファやイスを置いて自由に坐ることができる場所を提供。3畳間にコタツを置いて自由に寝ころべるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具を持ってきてもらう。居室の家具の移動は必要最低限にして、なじみの空間として利用してもらっている。	○	ご本人やご家族と相談し、もっと居心地のよい工夫をする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や居室に居られない時、窓を開放し換気を実施。各居室に換気扇あり。 温度計、湿度計は各居室に設置し、エアコン・加湿器でこまめに調整。 夏は日射しが強すぎるので日よけの為に寒冷遮を使用。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの方が多いので屋内すべてバリアフリー。手すりも随所に設置。トイレ・浴室も車イスで自由な動きができる広さがある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室内の家具や移動を必要最低限にして、慣れ親しんだ空間を維持。居室にネームプレートをつけ確認してもらっている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにて気分転換をしたり、外気に触れてもらっている。 広い庭を利用して、お弁当を開いたり、バーベキューを楽しめるようにしている。畑の前に花壇設置。	○	木陰を作る等、夏場でも外で過ごせる空間を作りたい。ウッドデッキに手すり(柵)を作り、安心して出て頂けるようにしたい。 入居者の方と一緒に作業が出来る畑を作る予定。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家とは少し離れているが、畑に囲まれ、静かでのんびりしている。新築平屋建て、リビング、各居室とも日当たりがよく、風邪通しもよい。

車イスの方が多いため、屋内全てバリアフリーで自由に暮らすことができる。

食事については、制限がある方が多く、一人ひとりに合わせた献立を提供している。

重度化してもその人の生きる気力を大切にして、普通の暮らしができるよう支援している。